

合や率の特定は困難である。

内閣府は、内閣府において最も代表的な世論調査に関して、調査方法を比較検討して以下の報告を行っている。「世論調査におけるインターネット調査の活用可能性～社会意識について～(平成21年1月)」「世論調査におけるインターネット調査の活用可能性～国民生活に関する意識について～(平成21年6月)」。そこでの結論は、ネット調査と一般調査では結果が大きく異なり、ネット調査はまだ一般調査の代用にはならないとするものである。

よって、議論の焦点となっている2類の医薬品に関する購入実態とその利用、副作用などについては、これまでの調査研究では、不確かな部分が多いと評価できるだろう。

したがって、ネット利用による一般用医薬品の購入実態や非ネット利用者を含めた一般人の中でのネット利用の位置づけを行う際には、さらには、一般人の意識と有識者(たとえば薬剤師)の意識との異同を検討するには、従来のランダムサンプリングによる社会調査(面接調査や郵送調査)を行うべきであると考えられる。

本調査は、長野県を対象としたランダムサンプル調査であり、その結果については、本報告書を見てもらうことにし、本報告では特に、一般世論を中心に分析を行う。

医薬品のインターネットなどによる販売についての意見

問20の10問が医薬品のネット販売についての意見を尋ねたものである。そこでその10問に対して因子分析を行った。その結果2つの因子が抽出された(主因子解、バリマックス回転)。表1にあるように因子1の因子負荷量の大きな5問は「リスク認識」因子、因子2は「利便性認識」因子と名付けられよう。そこで、この結果を利用し尺度可能性を検討した。その結果、「リスク認識」尺度でCronbach $\alpha=0.84$ 、「利便性認識」尺度でCronbach $\alpha=0.76$ であった。

尺度間の相関は負の相関(-.31)であった。つまり、リスク認識が強い人は利便性認識が弱く、リスク認識が弱い人は利便性認識が強いということである。

表 1 因子分析結果

質問	因子	
	1	2
問 20-A 購入者の状態（顔色などの身体状況）がわからないため、適切な薬を選択する機会が失われ、安全性や有効性が確保できない	.729	-.166
問 20-B 薬の安易な購入や、大量購入による中毒などの危険性が増す	.746	-.141
問 20-C 医療機関への受診が必要な際も、薬剤師など専門家から購入者へのアドバイスの機会がなくなってしまう	.733	-.102
問 20-D 副作用や飲み合わせなどについて疑問があった際に相談できない	.685	-.127
問 20-E 結果として、違法ドラッグや偽薬（にせ薬）が広まるなどのリスクが高くなる	.640	-.151
問 20-F 薬を購入する利便性が高まる一方、危険も伴うが、自己責任であり認めても問題ない	-.213	.447
問 20-G お店での対面販売と同様に、適切な薬の選択や安全性を確保できる	-.257	.410
問 20-H 離島やへき地などでの利便性が高まる	-.056	.790
問 20-I 足が不自由などの理由で、買い物に行けない方々の利便性が高まる	-.015	.849
問 20-J 販売履歴のデータ収集・蓄積が容易なので、適切な販売を行うための仕組みとして有用である	-.136	.592

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

よって、この 2 つの尺度を用いて、一般用医薬品のインターネット販売に対する認識を検討することにする。

結果

結果1 クロス集計

世論に影響を与える可能性がある独立変数として次の7つの変数を考えた。

地域（市町村）

性別

年代

健康状態

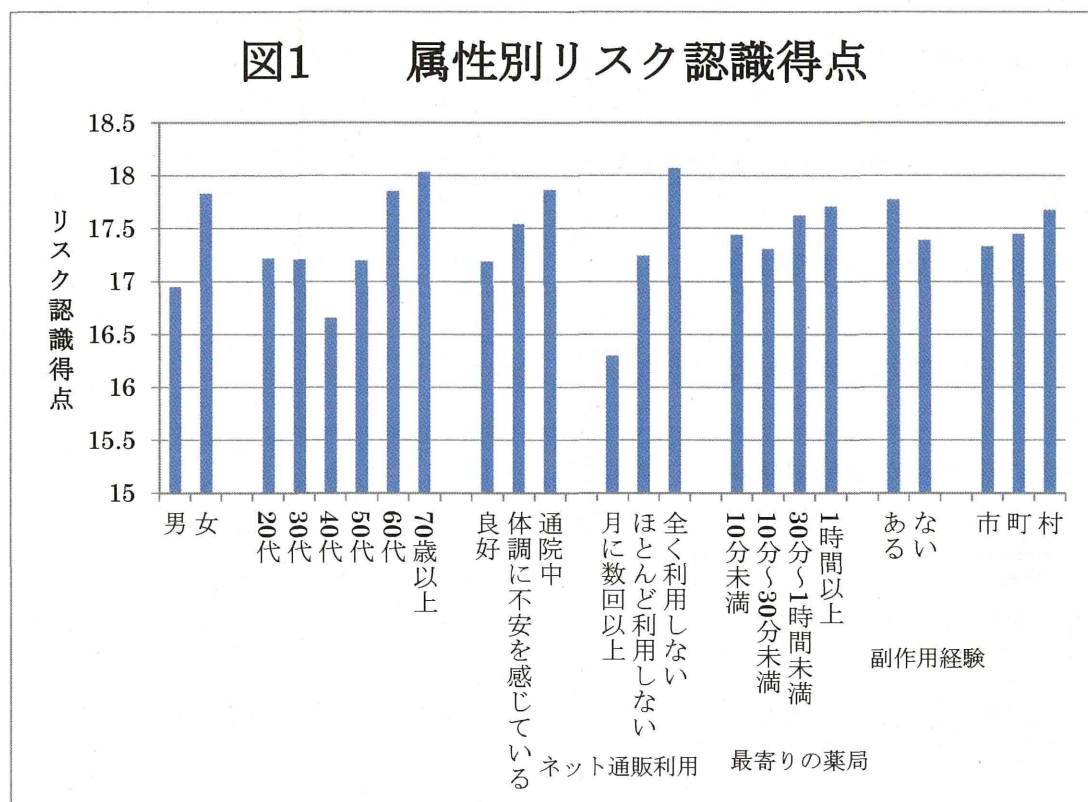
ネット販売の利用状況

薬局やドラッグストアまでいくのにかかる時間

副作用経験の有無

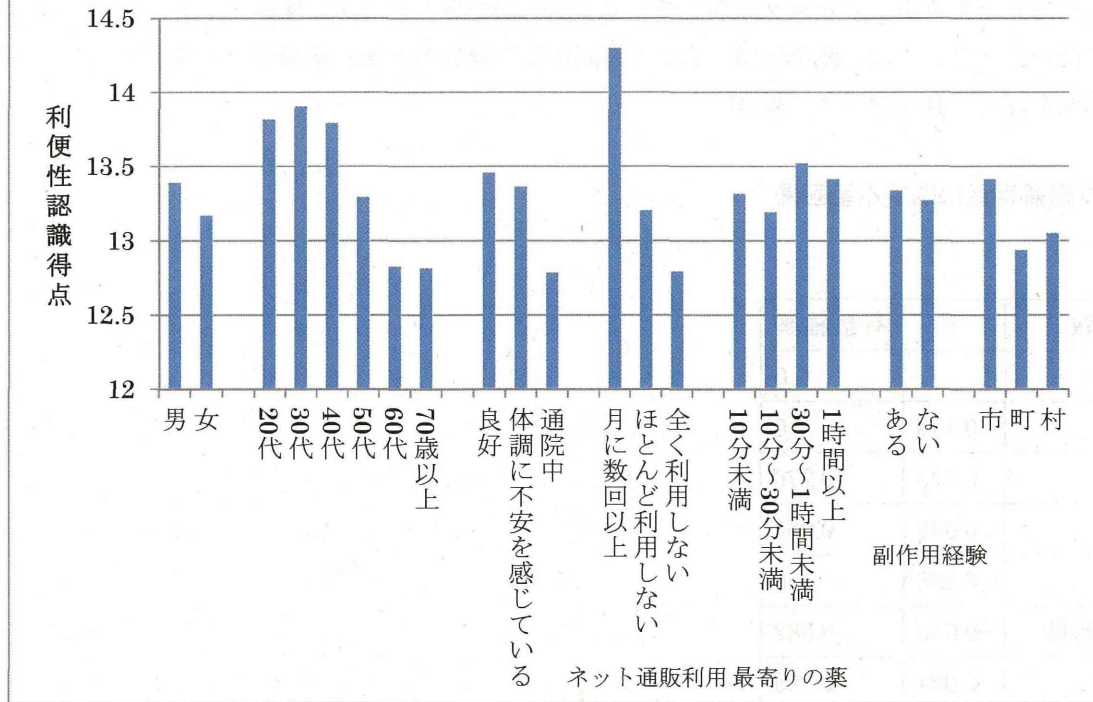
特に、本調査では村部のサンプルを多くとって検討した。それは、山間部にネット販売の需要が高いのではないかと考えられたからである。

図1が属性別にみたリスク認識結果である。



男より女が、若年層よりも高年齢層が、健康が良好な者よりも通院中の者が、ネット販売を利用している者よりも利用していない者が、最寄りの薬局へは時間がかかる方が、薬の副作用は経験がある方が、市部よりも村部がリスクがあると認識している。大きな差が見られるのは性別、年代とネット販売の利用度である。

図2 属性別利便性認識得点



利便性認識に関しては、どちらかというとりスク評価とは反対の傾向が見られる（図2）。男、若年層、健康が良好、ネット販売を利用する方、市部に利便性評価が高い。特に大きな差は年代とネット販売利用である。副作用経験に関してはほとんど差がない。最寄りの薬局までの距離はリスク認識と同様に遠い方に利便性認識が高いという結果が得られた。

結果 2 重回帰分析結果

続いて、同じ独立変数を用いてリスク認識に関する重回帰分析を行うと、性別とネット販売を利用しているかが関連があり、年代、健康状態、薬による副作用の経験の有無、薬局までの時間、そして市町村の別は関連が認められなかった（表 2）。

表 2 リスク認識得点に関する重回帰分析結果

独立変数	β	有意確率
(定数)		0
性別	0.145	0
年代	0.029	0.276
健康状態	0.046	0.058
ネット販売	0.228	0
薬局までの時間	-0.013	0.582
副作用経験	-0.031	0.189
市町村	0.038	0.111

同様に、利便性認識に関する重回帰分析結果では、年代とネット販売を利用しているかに関連が認められ、性別、健康状態、薬による副作用の経験の有無、薬局までの時間、そして市町村の別には関連が認められなかった（表 3）。

表 3 利便性認識得点に関する重回帰分析結果

独立変数	β	有意確率
(定数)		0
性別	-0.028	0.247
年代	-0.052	0.059
健康状態	-0.058	0.023
ネット販売	-0.16	0
薬局までの時間	0.026	0.29
副作用経験	0.002	0.932
市町村	-0.049	0.049

よって、調査前に想像されたような薬局の利用可能性の違い、副作用経験の有無、市部と山間部の相違ということはネットによる薬販売に対する意識にあまり対して影響がないことがわかった。

また、本調査の最後の問「インターネットなどによる販売を通して、薬を購入したいと思うか」に関しては「購入したいと思わない」が52.2%と半数に及ぶ。そこで、その質問のカテゴリーを「5 購入したい 4 場合によっては購入したいと思う 3 なんともいえない・わからない 2 あまり購入したくない 1 購入したいと思わない」と得点化し、先ほどの変数にリスク認識、利便性認識を加えて同じく重回帰分析を行うと、表4のような結果になった。

表4 ネットによる薬に対する購入意欲

独立変数	β	有意確率
(定数)		0.000
性別	-0.021	0.300
年代	-0.109	0.000
健康状態	0.057	0.005
ネット販売	-0.248	0.000
薬局までの時間	0.044	0.031
副作用経験	0.003	0.888
市町村	0.008	0.685
リスク認識	-0.292	0.000
利便性認識	0.266	0.000

つまり、市町村別は関連が認められないが、薬局までの時間は関連が認められ、時間がかかる方が購入意欲が強いことがうかがえる。危険認識と利便認識は非常に強い関連が認められ、リスク認識が低いと、また、利便性認識が高いと購入意欲が高かった。

意識が実際の行動と結びつくかはわからないが、現時点では一般人に判断基準や情報がないので、購買行動決定に比較的大きな影響を与えると考えられる。

結果3 一般人と薬剤師の認識の比較

本調査では、松本市の薬剤師(薬局の意向を尋ねるために、1店につき1人の代表の薬剤師に回答してもらった)にも意見を尋ねているので、最後に、一般世論と薬剤師の薬のネット販売についての意見の相違を見てみよう。

その結果、一般人薬剤師の性、年代が異なっているが、薬剤師の方が一般よりリスク評価が高く、利便性評価が低いことがわかる(図3、図4)。

図3 一般と薬剤師の薬のネット販売に関するリスク評価

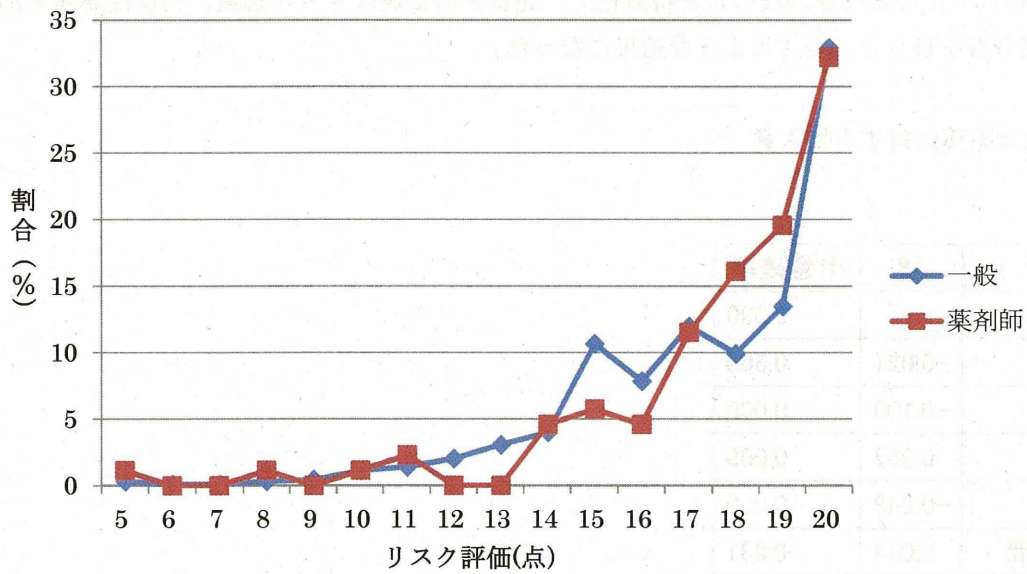
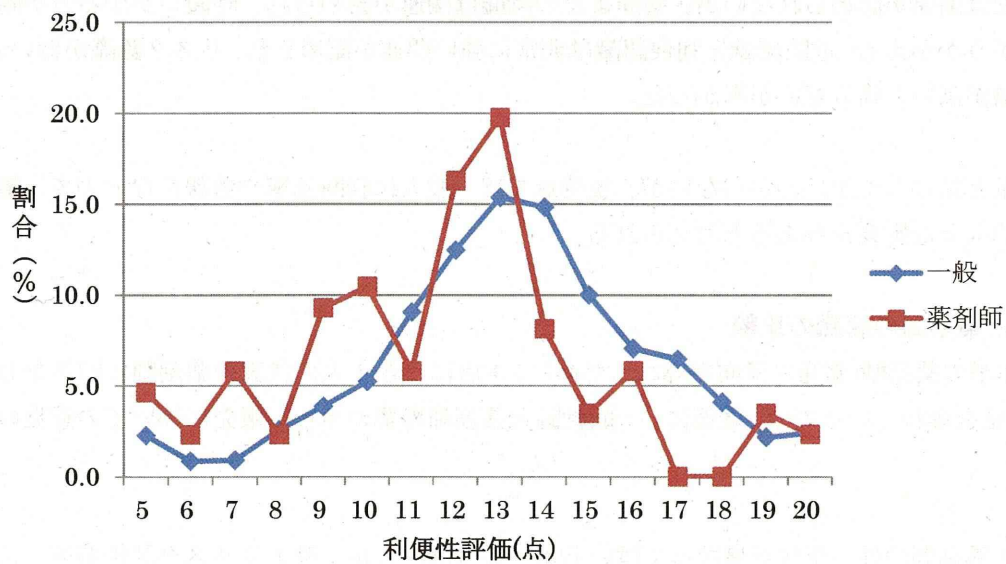


図4 一般と薬剤師の薬のネット販売に関する利便性評価



今後の政策決定に関しては専門家は自らの偏向度を認識しておく必要がある。他方、一般人は、専門家よりもリスク認識が甘いことも認識すべきである。

IV 自由回答

問4 インターネットで購入したことがある	性別	年代	職業
洗剤等	女性	60代	専業主婦
医薬部外品の薬用しみ対策液	女性	20代	事務系・技術系従事者
健康器具	女性	50代	無職
お灸	女性	30代	事務系・技術系従事者

問5 自宅から最寄りの薬局やドラッグストアへの交通手段	性別	年代	職業
タクシー	女性	70歳以上	無職

問8 (問7で①～⑤とお答えの方) よく利用する理由	性別	年代	職業
通販:組合でまとめて購入するので安い	女性	60代	現業系・サービス系従事者
通販:定期的に届くので	女性	60代	現業系・サービス系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:通勤途中にあるため	女性	40代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:買い物のついでに利用出来る	女性	50代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:種類が多い	女性	60代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:種類が多い	男性	50代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:病院の近くだから	女性	50代	専業主婦
ドラッグストア・スーパーなど:急いでほしい時がある	女性	20代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:他の買い物のついでに	男性	50代	役員・管理職・自由業
ドラッグストア・スーパーなど:安い時があり、ポイントが貯まる。他のものもついでに見れる	女性	30代	現業系・サービス系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:買い物に出掛けた際、通リ道なので	女性	60代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:買い物のついでに	女性	40代	農・林・漁業
ドラッグストア・スーパーなど:買いやすい	女性	50代	パート・アルバイト
ドラッグストア・スーパーなど:気軽に入れる	女性	60代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:薬以外の買い物も出来る	女性	30代	パート・アルバイト
ドラッグストア・スーパーなど:品数が多い	男性	60代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:品数がわりとそろっている	男性	40代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:自分の体に合う(好みに合う)薬を選ぶことが出来る	男性	50代	無職
ドラッグストア・スーパーなど:種類があり、手にとって比較出来るため	女性	30代	パート・アルバイト
ドラッグストア・スーパーなど:職場に近い	男性	50代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:食料品スーパーと隣接していて、安いので立寄る	女性	60代	専業主婦
ドラッグストア・スーパーなど:食料品スーパーと隣接しているので便利	男性	60代	無職
ドラッグストア・スーパーなど:スーパーに行った時、ついでに	男性	70歳以上	無職
ドラッグストア・スーパーなど:スーパーの隣にあるドラッグストアに食料品の買い物に行った時に買う	女性	50代	農・林・漁業
ドラッグストア・スーパーなど:頭痛薬等は同じものを使いたいの	女性	20代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど:その他の買い物もできて便利、品揃えが良い	女性	50代	パート・アルバイト

ドラッグストア・スーパーなど: 近くだから	女性	30代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど: 買い物ついで	男性	50代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど: 買い物ついで	女性	60代	無職
ドラッグストア・スーパーなど: 買い物ついでに寄る。大型ショッピングセンターなど	女性	60代	商工・自営業
ドラッグストア・スーパーなど: 手軽に購入出来るから	男性	30代	商工・自営業
ドラッグストア・スーパーなど: 通り道だから	女性	40代	現業系・サービス系従事者
ドラッグストア・スーパーなど: 通り道でポイントが付くから	女性	30代	専業主婦
ドラッグストア・スーパーなど: ドラッグストアにしか在庫がないため	女性	40代	無職
ドラッグストア・スーパーなど: ポイントがたまる	女性	40代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど: ポイントがたまる、メンバー割引がある	女性	40代	専業主婦
ドラッグストア・スーパーなど: ポイントがたまるから	女性	40代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど: ポイントが付く	女性	30代	専業主婦
ドラッグストア・スーパーなど: 他の買い物と一緒に1軒で用事を済ませることが出来る	女性	60代	専業主婦
ドラッグストア・スーパーなど: 他の買い物のついで	男性	40代	現業系・サービス系従事者
ドラッグストア・スーパーなど: 他の買い物も出来るから	男性	30代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど: 他のものも一緒に買えるから	女性	50代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど: 割引がある	男性	50代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど: 割引の期間	女性	40代	パート・アルバイト
ドラッグストア・スーパーなど: 薬以外の化粧品なども購入出来るから	女性	20代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど: 薬以外の物も購入出来るから	女性	50代	専業主婦
ドラッグストア・スーパーなど: 薬以外の物も購入出来るから	女性	20代	学生
ドラッグストア・スーパーなど: 車で1時間程かかるが、そこが一番近い	男性	50代	農・林・漁業
ドラッグストア・スーパーなど: 選択肢が多い。商品構成が充実している	男性	50代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど: 近くに薬局がないため	男性	70歳以上	無職
ドラッグストア・スーパーなど: 日用品の購入も出来るので	女性	40代	事務系・技術系従事者
ドラッグストア・スーパーなど: 日用品の購入も出来るので	男性	50代	農・林・漁業
ドラッグストア・スーパーなど: 必要なものがあれば、必要な時に購入出来る	男性	50代	パート・アルバイト
ドラッグストア・スーパーなど: 他の買い物のついで	男性	70歳以上	商工・自営業
ドラッグストア・スーパーなど: 他の用事のついでに立ち寄れる場所	女性	40代	パート・アルバイト
配置薬: 風邪薬が自分に合う	女性	60代	パート・アルバイト
配置薬: 少しらしいの風邪なら配置薬で充分治る	女性	70歳以上	農・林・漁業
配置薬: JA 関係なので安心の配置薬	女性	60代	パート・アルバイト
配置薬: 家にあるから	男性	70歳以上	無職
配置薬: 家にあるから	女性	60代	農・林・漁業
配置薬: 家にあるから	男性	50代	事務系・技術系従事者
配置薬: 家にあるのですぐ使える	女性	60代	現業系・サービス系従事者
配置薬: 家にあるので便利	女性	60代	現業系・サービス系従事者
配置薬: 委託契約をしているので	男性	50代	事務系・技術系従事者
配置薬: いつでも手元にあって便利	男性	70歳以上	農・林・漁業

配置薬:いつでも手元にあって便利	男性	70歳以上	農・林・漁業
配置薬:いつでも手元にあって便利	女性	60代	専業主婦
配置薬:置き薬で間に合う	女性	60代	無職
配置薬:主に利用する家庭薬がいつもそばにあって安心	女性	70歳以上	パート・アルバイト
配置薬:風邪薬は効く	男性	60代	無職
配置薬:気に入っている薬だから	女性	70歳以上	専業主婦
配置薬:薬が良く効くから	男性	30代	現業系・サービス系従事者
配置薬:薬の使用が少ないので、配置薬で十分間に合う	女性	40代	事務系・技術系従事者
配置薬:薬を買いに行く余裕はない	女性	40代	無職
配置薬:子どもの頃から飲んでるから	女性	60代	商工・自営業
配置薬:自分の症状には何が良いか、なんとなくわかるから	女性	20代	事務系・技術系従事者
配置薬:すぐ使えて便利	女性	50代	パート・アルバイト
配置薬:すぐ手元にあり便利、そして支払いが母の口座から引き落としなのでお得	男性	30代	事務系・技術系従事者
配置薬:すぐ手元にあるから	男性	70歳以上	農・林・漁業
配置薬:すぐ手元にあるから	男性	70歳以上	農・林・漁業
配置薬:すぐ手元にあるから	男性	60代	現業系・サービス系従事者
配置薬:すぐ手元にあるから	男性	70歳以上	農・林・漁業
配置薬:すぐ手元にあるから	男性	50代	事務系・技術系従事者
配置薬:近くに薬局がないから	女性	40代	現業系・サービス系従事者
配置薬:定期的に来てくれる	男性	50代	商工・自営業
配置薬:定期的に来てくれるから	女性	50代	パート・アルバイト
配置薬:定期的に来てくれるから	女性	60代	現業系・サービス系従事者
配置薬:定期的に来てくれるから	男性	40代	事務系・技術系従事者
配置薬:定期的に薬を置きに来てくれるから	女性	60代	専業主婦
配置薬:手元にあって便利	女性	50代	現業系・サービス系従事者
配置薬:手元にあって便利	男性	60代	役員・管理職・自由業
配置薬:手元にあって便利	女性	60代	事務系・技術系従事者
配置薬:手元にあって便利	男性	40代	現業系・サービス系従事者
配置薬:手元にあって便利	男性	30代	現業系・サービス系従事者
配置薬:手元にあって便利	女性	60代	農・林・漁業
配置薬:手元にあって便利	男性	40代	現業系・サービス系従事者
配置薬:長い間(20年くらい)利用しているから	女性	50代	パート・アルバイト
配置薬:農協職員であるため、農協配置薬を利用している	男性	50代	事務系・技術系従事者
配置薬:農協の薬(定期的に配られるから)	女性	60代	農・林・漁業
配置薬:配置薬で治ることが多いから	女性	50代	農・林・漁業
配置薬:必要な時にあるから	女性	40代	パート・アルバイト
配置薬:店が遠い。夜間など手元にあるので便利	女性	60代	無職
配置薬:置き薬と決めているから	男性	60代	現業系・サービス系従事者
薬局:仕事が終わった後でも遅くまでやっている。通勤途中にある	男性	50代	役員・管理職・自由業

薬局:職場(施設)で利用しているから	男性	30代	パート・アルバイト
薬局:働いているから	女性	20代	事務系・技術系従事者
薬局:病院に近い	男性	60代	無職
薬局:病院の近くだから	男性	60代	無職
薬局:病院の近くだから	女性	60代	農・林・漁業
薬局:病院の近くだから	男性	40代	商工・自営業
薬局:病院の隣だから	女性	70歳以上	専業主婦
薬局:ポイントがたまるから	男性	50代	役員・管理職・自由業
薬局:ポイントが付くから	女性	50代	事務系・技術系従事者
薬局:薬事カルテがあるから	女性	50代	専業主婦

問9 (問7で①～⑤とお答えの方) どのような薬を購入したか	性別	年代	職業
安定剤	女性	60代	パート・アルバイト
インスリン	男性	60代	無職
栄養剤	女性	70歳以上	専業主婦
栄養剤	男性	50代	役員・管理職・自由業
栄養剤	男性	50代	現業系・サービス系従事者
栄養ドリンク	女性	50代	パート・アルバイト
エクセگران(てんかんの薬)	男性	40代	農・林・漁業
介護用品	女性	50代	無職
肩こりの飲み薬	男性	50代	現業系・サービス系従事者
カットバン	女性	60代	専業主婦
花粉用アイボン	女性	20代	事務系・技術系従事者
傷薬	男性	50代	事務系・技術系従事者
傷薬	男性	70歳以上	無職
車の酔い止め	女性	50代	専業主婦
下剤	男性	60代	商工・自営業
血圧	男性	50代	事務系・技術系従事者
血圧、血糖の薬	男性	60代	無職
血圧、甲状腺、血糖を下げる薬	女性	60代	専業主婦
血圧、睡眠薬、めまい、吐き気	女性	70歳以上	無職
血圧、糖尿病の薬	女性	70歳以上	専業主婦
血圧、泌尿器科(前立腺)	男性	70歳以上	農・林・漁業
血圧の薬	男性	60代	無職
血圧の薬	女性	70歳以上	商工・自営業
降圧、痛風	男性	60代	役員・管理職・自由業
降圧剤	男性	60代	商工・自営業
向精神薬	女性	20代	学生
向精神薬	女性	50代	専業主婦

口内炎の薬	女性	20代	事務系・技術系従事者
コロスキン、絆創膏、マスク	女性	70歳以上	専業主婦
コンタクト用品	女性	40代	専業主婦
サプリメント	女性	60代	現業系・サービス系従事者
サプリメント(コンドロイチン)	男性	70歳以上	農・林・漁業
循環器系の薬	男性	60代	役員・管理職・自由業
神経、中性脂肪	男性	50代	無職
睡眠導入剤	女性	50代	専業主婦
精神安定剤	女性	30代	無職
精神治療薬	男性	50代	事務系・技術系従事者
喘息の薬	男性	60代	無職
痛風、蓄膿症	男性	60代	無職
テーピング	女性	60代	専業主婦
点滴液BSI	女性	70歳以上	専業主婦
糖尿病	男性	50代	農・林・漁業
糖尿病、甲状腺、痛風、睡眠薬	男性	70歳以上	無職
ドリンク剤	男性	50代	事務系・技術系従事者
妊娠中に張り止めの薬	女性	30代	専業主婦
のどの薬	女性	50代	商工・自営業
乗り物の酔い止め	女性	60代	無職
歯の薬	男性	60代	商工・自営業
歯みがき、肌にぬるもの	男性	40代	事務系・技術系従事者
絆創膏	女性	50代	専業主婦
絆創膏	女性	70歳以上	役員・管理職・自由業
絆創膏	男性	60代	農・林・漁業
絆創膏、綿棒	女性	50代	商工・自営業
便秘薬	女性	50代	事務系・技術系従事者
便秘薬	女性	60代	パート・アルバイト
便秘薬	男性	60代	商工・自営業
骨の予防	女性	70歳以上	専業主婦
ホルモン剤	女性	50代	事務系・技術系従事者
マスク	男性	40代	現業系・サービス系従事者
マスク、絆創膏、手荒れ用クリーム	男性	50代	パート・アルバイト
水絆創膏	男性	30代	専業主婦
虫刺されの薬	男性	30代	事務系・技術系従事者
虫刺されの薬	男性	30代	商工・自営業
虫刺されの薬(ムヒ)	女性	60代	役員・管理職・自由業
酔い止め	女性	30代	現業系・サービス系従事者
酔い止め	女性	40代	事務系・技術系従事者

問 11 (問 10 で「①ある」とお答えの方) 使用頻度はどれくらい	性別	年代	職業
JAで定期的に置いていく	女性	60代	専業主婦
胃薬は毎日	男性	60代	現業系・サービス系従事者
置いてあるだけ	男性	60代	農・林・漁業
置いてあるだけ	男性	50代	現業系・サービス系従事者
置いてあるだけ	女性	40代	パート・アルバイト
風邪をひいたときに使用	男性	60代	無職
風邪をひいたときに使用	女性	70歳以上	専業主婦
風邪をひいたときに使用	女性	60代	現業系・サービス系従事者
家族が使う	女性	60代	無職
決まりはない	女性	70歳以上	無職
決めていないので分からない	男性	60代	商工・自営業
具合の悪い時だけ	男性	60代	役員・管理職・自由業
自分は不使用。祖父母が利用している	女性	50代	パート・アルバイト
症状により3日間くらい続ける	女性	60代	専業主婦
体調の悪い時だけ	女性	40代	現業系・サービス系従事者
体調の悪い時だけ	女性	50代	商工・自営業
体調を崩した時、薬が必要と思った時	女性	20代	事務系・技術系従事者
配置を依頼されたので置いているが全く使用しない	女性	30代	現業系・サービス系従事者
鼻炎が出る月は週に1~2回程度、ない月は全く使用しない	女性	50代	現業系・サービス系従事者
必要な時	女性	50代	専業主婦
必要な時	女性	50代	専業主婦
病気を自覚した時	男性	70歳以上	農・林・漁業
不定期	女性	20代	学生
使用したことがない	女性	60代	専業主婦
使用したことがない	男性	60代	農・林・漁業
使用していない	男性	40代	役員・管理職・自由業
使用していない	男性	50代	無職
使用していない	女性	70歳以上	農・林・漁業
使用していない	男性	70歳以上	農・林・漁業
使用していない	女性	40代	事務系・技術系従事者
使用していない	女性	60代	無職
使用していない	女性	40代	パート・アルバイト
使用していない	女性	70歳以上	現業系・サービス系従事者
使用していない	女性	50代	事務系・技術系従事者
使用していない	女性	40代	事務系・技術系従事者
使用していない	男性	60代	農・林・漁業
使用していない	男性	60代	無職

使用していない	男性	50代	事務系・技術系従事者
使用していない	女性	50代	パート・アルバイト
使用していない	男性	60代	農・林・漁業
使用していない	男性	70歳以上	農・林・漁業
使用していない	女性	50代	パート・アルバイト
ほとんど使用していない	女性	40代	パート・アルバイト
ほとんど使用しない	男性	70歳以上	無職
ほとんど使わない	女性	60代	農・林・漁業
ほとんど使わない	男性	70歳以上	現業系・サービス系従事者
ほとんど使わない	女性	50代	事務系・技術系従事者
ほとんど使わない	女性	60代	商工・自営業
ほとんど使わない	女性	60代	無職
ほとんど使わない	男性	30代	現業系・サービス系従事者
ほとんどない	男性	50代	無職
全く使用せず	男性	60代	商工・自営業

問13 (問12で「①ある」とお答えの方) どのような薬を用いた際に、副作用など体調への影響があったか	性別	年代	職業
毛染剤	女性	20代	パート・アルバイト
向精神薬	女性	50代	専業主婦
骨粗しょう症	女性	60代	商工・自営業
ジェネリックの薬	男性	50代	事務系・技術系
睡眠薬、安定剤	男性	40代	商工・自営業
精神治療薬	男性	50代	事務系・技術系従事者
ホルモン剤	女性	50代	事務系・技術系従事者
ホルモン治療薬	女性	50代	専業主婦
酔い止め	女性	30代	専業主婦

問14 (問12で「①ある」とお答えの方) その原因と思われる薬を、どこで購入したか	性別	年代	職業
医師の処方	女性	60代	専業主婦
病院で処方された	男性	60代	無職

問15 (問12で「①ある」とお答えの方) その際、まずどこに相談したか	性別	年代	職業
相談していない: 合わないと思い使用を中止したら何となく良くなったので、自分には合わなかったのだと思い、その薬は廃棄した	女性	50代	現業系・サービス系従事者
相談していない: 自分には合わないと思ったから	女性	50代	専業主婦
相談していない: 内服を中止したから	女性	50代	事務系・技術系従事者

相談していない:副作用が出た時、薬を飲むことを止める	女性	60代	専業主婦
相談していない:服用後2~3回で症状が出たので、内服中止したところ改善したため	女性	50代	事務系・技術系従事者
相談していない:面倒、重症でなかったため(発疹・痒み程度で呼吸・発熱等まで及ばなかった)	女性	20代	パート・アルバイト

問 17 薬についてわからないことや困ったことがあった場合、どこへ相談や問い合わせをするか	性別	年代	職業
以前、夜間に子どもが熱を出したことがあり、前に病院でいただいていた薬の残りがあったので使って良いか#8000(小児救急医療電話相談)に電話をして確認したことがあった	男性	40代	事務系・技術系従事者
置き薬のメーカーの人に	男性	40代	事務系・技術系従事者
会社の医務室	男性	40代	事務系・技術系従事者
会社の保健管理室	女性	50代	パート・アルバイト
健康保健の相談窓口(テレホンセンター)	男性	60代	無職
施設で働いているので、その支援員、看護師、世話人さんたち	男性	30代	パート・アルバイト
添付文書を見る	男性	30代	事務系・技術系従事者
配置薬の担当者	男性	60代	農・林・漁業
保健師	女性	70歳以上	農・林・漁業
保健所	男性	70歳以上	無職
本(家庭の医学)	女性	50代	事務系・技術系従事者
本、雑誌等	男性	40代	現業系・サービス系従事者
相談しない:相談したところで良い返事がくることはないと思う	女性	60代	パート・アルバイト
相談しない:今まで特にそういったことがないから	男性	60代	商工・自営業
相談しない:薬を服用しないから	男性	30代	農・林・漁業
相談しない:そんな場合、それ以前に受診して薬をもらうから	女性	60代	事務系・技術系従事者
相談しない:常に薬は飲まないから	女性	70歳以上	専業主婦
相談しない:必要ないから	女性	40代	現業系・サービス系従事者
相談しない:薬剤師だから	男性	20代	事務系・技術系従事者
相談しない:わからないことがあったら、その薬は使わない	男性	30代	事務系・技術系従事者

▽薬に関する相談や説明、インターネット販売などに関する自由回答

	性別	年代	職業
薬の飲み合わせを判断出来るような仕組みを取ってもらいたい	男性	40代	農・林・漁業
薬もいろいろな種類があるので、種類によっては制限する必要がある	女性	50代	専業主婦
インターネットはあまり利用したことがないため、よく分からないが、洋服などはネットを利用すると大変安価になるが、薬も同様なのだろうか？だとすると、やはり自分も(自己判断で)ネットを利用してしまおうと	女性	50代	農・林・漁業
(薬剤師からの意見として)薬は副作用を避けられないものであるが、早期に発見し対処は薬剤師に任せるべきである。インターネット販売は確かに便利であるが非常に危険だと考える。医療は確かに“サービス業”ではあるが、決して“金儲け”であってはならない 面白そうな調査ですね。公表されるのを楽しみにしています	男性	20代	事務系・技術系従事者
すぐに薬を飲用することをせず、体の自然治癒力に出来るだけ任せる	女性	50代	専業主婦
インターネット販売の際は、公的に認められている店のみの販売とした方が安全性が高まると思う	男性	20代	事務系・技術系従事者
ネットなど使えない人(高齢者など)はどうすれば良いのでしょうか？	女性	40代	現業系・サービス系従事者
国民すべてがインターネットを利用出来るわけではなく、今や公のものごと「インターネットを利用してください」の一言で片付けられてしまうことに高齢者は戸惑いがあります	女性	60代	専業主婦
世の中があまりにも薬や医療に頼りすぎて怖いと思っています。出来るだけ食べ物や生活に注意しながら暮らしたいと思っています	女性	60代	農・林・漁業
自分の体のことを思うと薬はほとんど使いたくない。治すために飲んでも、違う部分にまた困った症状が出てきて辛さが増すだけの意識が自分には強いので。薬は飲まずにいられたら拒否したい。個人の自己責任なので、インターネットであろうと薬を使用することには自由	女性	60代	専業主婦
体が不調の時は、基本的に医者へかかり、よく診てもらって薬を出してもらうことがベターだと思っているので、直接薬局やインターネットで購入することは考えていない(特に自分には主治医がいるため)	男性	60代	農・林・漁業
薬剤師の社会的な立場、位置を明確にし、医師と同様に直接患者と向き合えるように立場を確立していくべきだ	男性	60代	無職
インターネットの使い方がよく分からないので使用はできない	男性	60代	農・林・漁業

薬等の心配のあるものを購入するのは、対人で行った方がよいと思う。衣服を買ったりするのと違うと思うのです	女性	70歳以上	専業主婦
インターネット販売は、法的な点からも、もっと検討と慎重な判断を必要とすると思います。輸入(個人)もインターネット代行で出来ますが、薬のリスクの大きさを服用する側がしっかり認識することが一番大切だと考えています。偽物が出回りやすいことも大きな問題だと思っています	女性	40代	専業主婦
安全性を確保するため基準や制限が必要と考える	男性	50代	事務系・技術系従事者
薬に頼らない生活にしたいと日頃の食生活、体力作りに心がけています。薬を見ても、あまりにも種類が多く、どの薬が良いのか?と大変迷います。なので信頼出来る医師の処方箋に頼ることにしています	女性	60代	専業主婦
自己責任を徹底することが基本だと思います	男性	50代	現業系・サービス系従事者
インターネット販売は利用したくない	男性	70歳以上	農・林・漁業
すべてのことは自己責任です	女性	60代	農・林・漁業
病院へ行って、先生の出していただく薬だと安心なので、インターネットでは購入する気は全くありません	女性	60代	専業主婦
インターネットができないので不便です	女性	70歳以上	専業主婦
効用は主治医に相談している	男性	70歳以上	無職
普段から薬に頼らないように暮らしているので、インターネットでの購入はこれからはしません	男性	50代	商工・自営業
インターネットなどのことはよく分からない	女性	70歳以上	専業主婦
病院で処方してもらっても副作用がひどい時もあるので、インターネットで買うことは良くないと思う	男性	30代	現業系・サービス系従事者
薬は医師に相談し指示に従うのが一番だと思う	男性	70歳以上	無職
薬局(ドラッグストア)で①かぜ薬～⑮その他を購入しても、説明を受けたことは一度もなく、バイトの店員がレジを打っただけです。似たような薬がある場合、どちらが良いかアドバイスをもらったことはありますが、副作用の説明はありませんでした。①～⑮の薬なら、自己責任としてインターネットで購入できれば良いです。インターネットでの購入にあたっては、品質・価格(送料)が気になるのですが、たぶん有名な薬しか購入しないと思います	女性	50代	役員・管理職・自由業
自己責任においてするならば良いが、どうしても必要ならば病院等で診ていただき、その指示に従うのが良いと思う。なんだかインターネットでは信用できない気がする。インターネットは見るのみで購入はしない	女性	60代	専業主婦
薬は大切な体を守ることなので、インターネットなどでは購入したくはありません。薬剤師さんなど相談して購入したいと思います	女性	70歳以上	無職
薬を続けて毎日飲むのに副作用(足のしびれ)が出たら、メーカーは責任を取れるのか?ちゃんとその人の体に合う薬を見つけていただければ良いのではないかと	女性	60代	専業主婦
インターネットは便利ですが、未成年でも簡単に薬を購入できてしまうという心配もあります。子ども達が簡単に入力できないように対策も考えてほしい	女性	30代	専業主婦
私は下剤をネットで購入しています。大事な薬は薬局で良いのではと思います	女性	50代	専業主婦

自己責任で処理出来る範囲の薬なら買うかも(育毛剤など)	男性	60代	事務系・技術系従事者
すべてを否定するわけではないが、対面しない販売はそれなりのリスクも多くあると思います。ケース バイ ケース	女性	40代	パート・アルバイト
薬に頼ることはあまり考えていない。薬は医師の指示で使うことが良い	女性	70歳以上	専業主婦
医者に説明をしてもらうのが一番と考える。インターネットはいかがかと思う。さもなければ薬を買うお店で薬剤師に相談してみるのも一方法かと考える	男性	70歳以上	農・林・漁業
薬販売がインターネットで出来る一番のメリットは人が減らせるため、税金が使われるお金が減る。デメリットは薬剤師の人たちの仕事がなくなってしまう。どちらを取るか…難しい	男性	40代	商工・自営業
薬の購入は診療機関にて十分説明を受けて病状に最も有効なものを選択して購入すべきと考える	男性	70歳以上	農・林・漁業
未成年者や老人等、判断能力の乏しい人の購入には危険が伴うため、あまり賛成できません。休日診療所の充実やスーパーで夜間も購入出来る等、他に出来ることがあると思います。病院に気軽に行かれるように通院職免などの充実も求めます	女性	50代	事務系・技術系従事者
問題も多いかと思うが、なかなか買いにくい人にとっては必要なのではないかと思う(高齢者・体の不自由な人等) 決まっている薬を定期的には買わないといけない人など便利だと思う。反面いたずらに購入して、自殺などに使うことをどうやって防いだら良いかという問題は起きると思う	男性	50代	商工・自営業
病院、医者が進める薬が信頼出来ると思う	女性	70歳以上	専業主婦
販売は現在店舗販売を行っているメーカーや、実績のある業者がインターネット販売をするなら安心です。新規参入はある程度のハードルが必要。責任の所在の面からも慎重に	男性	40代	役員・管理職・自由業
ネット販売は、利便性が高まる反面、リスクも高まると思うので、法律等を整備してから販売開始を望みます	女性	40代	専業主婦
インターネットを使つての薬の購入には思わぬ落とし穴があるような気がします	女性	70歳以上	無職
購入する個人の責任でインターネット販売を利用すれば良いと思う	男性	70歳以上	無職
皮膚の薬(アトピーや水虫)や避妊具などはインターネットの購入の方が人目につかないので良いと思った。購入者自身の自己責任がしっかりしていれば有効だと思います	女性	30代	事務系・技術系従事者
医者に相談してから薬を出してもらい、その後は薬局などで購入するので、インターネットも使い方では有難いと思います。内科などの自己判断は良くないので、インターネット販売は難しいと思う	女性	50代	パート・アルバイト
インターネットでの購入、それすなわち自分で判断した上でのことだから、仮にそれでトラブルがあっても販売者やメーカーに噛み付くのはなし。そのことを踏まえた上で利用するのであれば便利だし良いと思う。しかし、インターネットが皆使えるわけではない(高齢者や障害者など)全てがインターネット化してはならない。そもそもネットで薬を販売するといつて何万件もヒットしたら決められない。中でもドラッグストアで売っている程度の薬だったらやっても良いのではないか	男性	40代	現業系・サービス系従事者
高齢化社会を考えると、利便性の面からインターネット販売を認めても良いと思う	男性	30代	事務系・技術系従事者
薬のインターネット販売は危険だと思う	女性	70歳以上	専業主婦

薬もクレジットカードで購入出来る店が少ないので、ネット販売があれば良い	男性	50代	事務系・技術系
信頼出来るインターネット薬局など、運営(許可)の方法を考えるべきだ。例えば、大手製薬会社の直営店などが良いのではないだろうか	男性	50代	役員・管理職・自由業
薬は安易に手に入るより、必要か否かを考えることも必要だと思う。ネット販売を自由にすることは危険性も広がるので賛成できない	女性	50代	商工・自営業
僻地で薬を買いに行けない人たちは、大抵高齢者でインターネットも利用出来ない場合が多いので、それを理由にインターネット販売を進めるのはおかしい	女性	60代	現業系・サービス系従事者
インターネット販売は利便性や安価な優位性はあるが、安全性の確保(他の薬との飲み合わせなど)が課題と思う	男性	60代	役員・管理職・自由業
薬をもらう度、医院に行くのは時間のロスであり、病人が集まる医院に行き病気をもらう可能性も高い。医療費削減のためにも、個人の判断で薬を買える可能性が増すことは重要と考える	男性	60代	無職
既存店舗の既得権を守るための規制には反対だ。インターネットでの薬剤販売は購入者のリスクが高いことは事実だが、対面販売でなくても一定の安全性を確保するための規制をきちんと整備する方向性を探るべきだ。安易に一律禁止といった規制をよしとするのは、かえって違法な通信販売による被害を生むことになると思う	男性	30代	現業系・サービス系従事者
医薬品は安易に利便性を重視して販売・購入出来るようにすべきではない	男性	70歳以上	無職
インターネットはやらない	女性	60代	農・林・漁業
インターネットでの販売を開始するのであれば相談窓口を一本化し、いつでもどこでも相談が可能な体制をつくる必要がある(副作用や効能等を相談出来るように)	男性	50代	役員・管理職・自由業
<ul style="list-style-type: none"> ・知識不足等により、安易な気持ちで選んだ時は怖い ・時代であるから仕方がないが、便利な方法がもっと広まっていくのだろうか ・確実に相談出来る部門をつくり、安心して購入出来ることを願う 	女性	60代	役員・管理職・自由業
若い人たちにはインターネットが便利だ。でも年寄りばかりの生活には不便。やはり病院・診療所に頼る生活になってしまう	女性	70歳以上	専業主婦
いつも医院でいただく薬でさえ分からないので、じっくり聞きたいと思っているのに、インターネットで安易に薬が手に入るようになれば薬中毒の人がもっと増えるのではないだろうか	女性	60代	パート・アルバイト
個人の事情があるので必要な方もおられると思うが、出来るだけ信用出来るシステムであってほしい	女性	60代	専業主婦
普段使っている薬で体に合うものならば、インターネットで買う方が便利な場合もあるかもしれない	女性	30代	パート・アルバイト
インターネットでの販売は知識がなくても買ってしまうので反対	男性	40代	現業系・サービス系従事者
私は薬アレルギーのため、いつも医者から薬をもらうようにしているのでインターネットでは購入はしないつもりだ	女性	50代	パート・アルバイト
時代の流れとは言え、インターネット販売は私個人としてはあまり賛成出来ない。出来るなら薬剤師の指導を受け安心して飲める薬がほしいからだ	男性	50代	その他
インターネットは出来ないので息子に相談している	女性	70歳以上	専業主婦